

令和2年度

## 経営発達支援計画事業評価書



保内町商工会事業所応援プロジェクト — Take Out 幟旗 —

保内町商工会

令和3年3月22日

経営発達支援計画の事業評価について	1 P
<b>I. 経営発達支援事業の内容</b>	
1. 地域の経済動向調査に関する事	2 P
2. 経営状況の分析に関する事	4 P
3. 事業計画策定支援に関する事	6 P
4. 事業計画策定後の実施支援に関する事	9 P
5. 需要動向調査に関する事	10 P
6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関する事	12 P
<b>II. 地域経済の活性化に資する取組</b>	14 P
<b>III. 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組</b>	
1. 他の支援基幹との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関する事	16 P
2. 経営指導員等の資質向上等に関する事	18 P
3. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関する事	20 P
評価者からいただいたその他の意見	21 P

## 経営発達支援計画の事業評価について

### □ 事業評価にあたって

経営発達支援計画期間（平成30年度から5か年間）における小規模事業者個社支援の年次目標値に対しての事業達成度を客観的に評価する。

### □ 評価の方法について

評価は、目標値に対する実績・実行結果を基に（事業の実施状況・成果の検証・改善策）を定量・定性的に評価し、次年度以降の取組（計画）を評価する。

### □ 評価の反映について

事業評価と改善策は、理事会の承認を受け翌年度以降の事業推進に反映させる。

### □ 評価基準

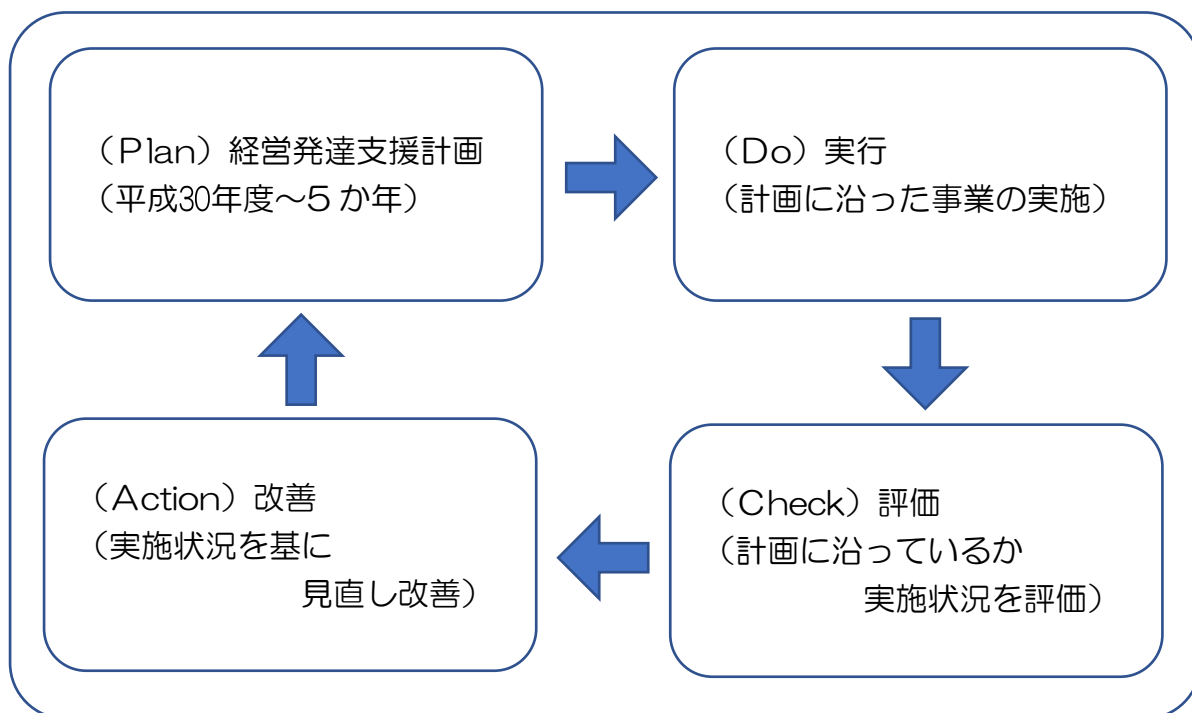
A：目標を達成することができた

B：目標を概ね達成することができた

C：目標を半分程度しか達成することができなかった

D：目標をほとんど達成することができなかった

## 評価の流れ（PDCAサイクル毎年実施）



## □実施事業の内容等

### I. 経営発達支援事業の内容

#### 1. 地域の経済動向調査に関すること

(1) 事業目的等										
小規模事業者の経営支援のため、関係機関が発表する景況調査・統計調査による情報収集及び小規模事業者の巡回訪問による経営状況を把握し、事業者の事業形態に応じた適切な経営支援に活用するため実施する。										
(2) 実施した事業内容										
① 中小企業景況調査の活用										
四半期毎に売上額（建設業においては完成工事額）、採算、資金繰り等についてHP等にアップし、事業者の活用機会の向上に努めた。										
〈巡回訪問による情報収集〉										
新型コロナウイルス禍において、状況の把握と今後の展開等を伝えるために調査書を基に直接事業者から経営上の問題点（本年度は特に新型コロナウイルスへの対応等）を洗い出すなど、情報収集を行った。										
② 経済団体調査等の活用										
○ 調査資料										
・いよぎん地域経済研究センター発行「調査月報 IRC MONTHLY（愛媛県経済の動き）」										
・愛媛経済レポート										
・国や県、市の実施する各種新型コロナウイルス対策情報										
○ 調査項目										
・地域経済の動き、新規事業の動き、公的機関の新型コロナ支援策 等										
○ 活用方法										
・ホームページ及び商工会だよりへの掲載、文書の発行										
・巡回訪問時等での個社支援										
<目標及び実績>										
※ 本年度のみの調査項目										
調査名		情報源					調査回数			
中小企業景況調査の活用		機関発行調査報告書					4			
		巡回調査					0			
経済団体調査		IRC MONTHLY					10			
		愛媛経済レポート					35			
※新型コロナウイルス対策支援		国及び県、市の情報通知					8			
項目	30年度		令和元年度		2年度		3年度		4年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
ホームページ	4	0	4	4	4	8	4	-	4	-
商工会だより	3	0	3	2	4	3	4	-	4	-

(3) 事業の成果

- ・ 中小企業景況調査等の活用においては、新型コロナウイルス感染拡大による経済への影響をまとめ、事業所の経営上の問題点や課題を洗い出し、補助金及び助成金、融資等を活用した経営支援策を提案し、実施することができた。
- ・ 国及び県、市の新型コロナウイルス支援情報や経済団体調査等で得た情報については、各職員が広い範囲で収集を行い、職員間で共有するために一覧表にまとめ、巡回訪問時に職員間の格差なく情報提供を行ったり、ホームページや商工会だよりへ掲載をしたりと地域の実態とコロナ禍の現状に即した有効な情報を提供・発信することができた。

(4) 事業実施における課題

- ・ 各種調査の分析結果のホームページや商工会だよりへの公表については、十分な回数をこなしているが、会員の閲覧数に関しては低調であった。そのため、閲覧数を上げる努力と、確実に情報を会員が得られる手立てを考える必要がある。
- ・ 中小企業景況調査の活用は、同様の調査を今後も継続して行い地域内の事業所の実態に即した支援ができるように独自調査を実施する必要がある。
- ・ 個々の事業者に即した情報提供として巡回訪問は有効であり、今後はさらに積極的に実施していく必要がある。

(5) 評価及びコメント

評価	A	B	C	D
人数	1	7		

【コメント】

- 通常であれば目標達成の評価となっていたと思うが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、目標達成に至らなかったのが残念であった。内容的には申し分のないものである。
- コロナ対策支援としての訪問活動ができています。各種調査の分析結果のホームページや商工会だよりへの公表はよいが、全会員の閲覧数を上げる工夫が必要である。
- 情報収集でパソコンを利用して活用できたのがよかった。事業の成果も情報収集の結果を活用できたのがよかった。課題も見つかり次に生かしてほしい。
- 目標を概ね達成できているが、課題にも記載されている点を次年度は意識して取り組んでいただきたい。
- コロナ対策の一覧表は、多くの支援制度が創設される中、非常に分かりやすいものであった。
- 各種調査資料から多面的な視点で情報発信ができています。

## 2. 経営状況の分析に関すること

(1) 事業目的等										
経営分析は、経営計画策定の第一段階の作業として実施。個社の経営実態を把握し計画策定・経営支援の資料に活用する。										
(2) 実施した事業内容										
① 記帳代行事務による経営分析										
記帳代行システム「ネット de 記帳」による経営分析を実施した。分析は、主に損益分岐点分析による利益体質を確認。更に、収益性・安全性・労働生産性など事業所、業種に合わせた経営内容を分析した。										
② 経営分析セミナーの取組										
新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、密を避け、感染予防に徹するために本年度はセミナーを実施できなかったが、それに代わり専門家派遣による個別相談を実施した。										
③ 巡回訪問・窓口相談による経営課題の把握										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営課題の把握は、経営指導員・支援員の巡回訪問及び毎日の窓口相談として実施した。</li> <li>・重点支援対象事業者（若手経営者・後継者がいる事業所）には、巡回訪問により「売上高・市場状況・仕入状況・従業員の技術継承状況・商工会への要望」など課題を把握した。</li> </ul>										
〈情報の分析〉										
把握した情報は、地域経済動向調査を踏まえSWOT分析（外部環境の機会・脅威、内部的環境の強み・弱みの分析）、3C分析（市場・顧客、競合、自社）により、自社の強み、弱みは何か、顧客が何を求めているかなどの分析に加え、財務データを基に損益分岐点計算などの定量分析を実施した。更に、専門的な経営分析は専門家派遣事業により実施した。										
＜目標及び実績＞										
	30年度		令和元年度		2年度		3年度		4年度	
項目	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
ネット de 記帳経営分析数(件)	20	-	20	24	40	28	50		60	
経営分析セミナー開催数(回)	1	-	1	0	1	0	1		1	
経営分析セミナー参加数(人)	10	-	10	0	15	0	20		25	
巡回訪問数(件)	80	-	80	32	160	171	200		240	
聞き取り調査による経営分析数(件)	10	-	10	23	20	28	25		30	
専門家派遣回数(件)	3	-	3	9	5	7	8		10	
(3) 事業の成果										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員事業者のネット de 記帳への移行が徐々に増えており、昨年度を上回ったが、目標値を上回ることはできなかった。</li> <li>・新型コロナウイルス対策としての巡回訪問の件数が急増し、それに伴い聞き取り調査による経営分析数も目標を上回る着実な成果を上げることができた。</li> <li>・セミナーの代わりに専門家派遣による個別相談を実施し、より具体的な計画策定への足掛かりとなった。</li> </ul>										

(4) 事業実施における課題

- ・経営分析の結果をより具体的・有効的な事業計画策定に結び付けていくためには、個々の事業者に経営分析結果への理解度を向上させることが大切となる。そのためにも、次年度は経営分析セミナーを実施する必要がある。
- ・専門家による個別相談を受けた事業者は、事業計画策定の意義等、理解が進んでいる。コロナが長期化することも予想されるため、巡回訪問にも一層の力を入れ、より安定した経営ができるように支援を続けていく必要がある。
- ・経営分析セミナーの開催は有効であるが、専門家派遣による事業者へのアドバイスも重要であることを再認識できた。今後も状況に応じて専門家派遣を進める必要がある。

(5) 評価及びコメント

評価	A	B	C	D
人数		7	1	

【コメント】

- 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、セミナー開催が実質できない状況であったが、個別相談等に切り替えるなどの措置には評価ができる。ウイルスの収束が不透明なこの時期、次年度に向けセミナー開催を別の形で行うなどの対応策を期待したい。
- セミナーができなかったが、巡回訪問及び専門家派遣などの回数が上がっているため、そこからより安定した経営ができるように支援していただきたい。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、セミナーが開催できなかったということで、その中でも違った事業に取り組み、成果が出ているのがよかった。
- セミナーの開催はなかったが、代わりに専門家派遣による個別相談を実施しており、巡回訪問数・経営分析数・専門家派遣回数は目標を上回っているため、一定の成果が上がっている。
- セミナーが開催できないなら、専門家派遣による個別相談に切り替えるなどの迅速な対応ができています。
- ネットde記帳など、一部目標未達項目があるが、訪問回数、専門家派遣など目標を上回る項目もあり、概ね目標達成と判断できる。

### 3. 事業計画策定支援に関すること

(1) 事業目的等										
事業計画策定支援は、地域の経済動向を見極め、自社の経営状況の分析結果から地域需要の現状を基に将来5か年を予測し、新たな顧客獲得・新規商品開発・販路開拓等を加えた計画策定を目標に支援する。更に、経営管理が出来る経営者育成支援を併せて実施する。										
(2) 実施した事業内容										
① 事業計画策定セミナーと支援事業										
セミナーについては、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて実施できなかった。										
【個別相談支援事業】										
ア 実施日 令和2年12月4日(金)										
講師 特定行政書士 盛川 心輔										
相談事業所 1社										
相談内容 製造工程策定・経営計画策定支援										
イ 実施日 令和2年12月16日(水)										
講師 中小企業診断士 西村 修造										
相談事業所 3社										
相談内容 経営計画策定・事業継承計画・第二創業支援										
ウ 実施日 令和2年12月18日(金)										
講師 中小企業診断士 西村 修造										
相談事業所 2社										
相談内容 経営計画策定・事業継承計画支援										
エ 実施日 令和3年2月18日(木)										
講師 特定行政書士 盛川 心輔										
相談事業所 1社										
相談内容 製造工程策定・経営計画策定支援										
② 創業・第二創業支援事業										
・八幡浜市の創業支援計画(創業セミナー)や移住定住支援事業等と連携し、創業・第二創業希望者の発掘から経営革新計画の策定、販路開拓など事業計画策定のフォローアップ支援を行った。 支援者数 5名										
・巡回訪問を行う中で、第二創業予定者に、個別相談において経営・財務等への指導を行った。また、創業計画書の作成支援や操業にあたって利用できる各種補助金等の説明を行い支援した。 支援者数 2名										
<目標及び実績>										
項目	30年度		令和元年度		2年度		3年度		4年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
事業計画策定セミナー開催数	2	-	2	2	2	0	2		2	
事業計画策定セミナー参加者(人)	20	-	20	16	30	0	40		50	
事業計画策定事業者数(人)	5	-	5	0	10	0	15		20	
経営分析・セミナー不参加業者支援数(人)	3	-	3	4	5	0	5		5	



項目	30年度		令和元年度		2年度		3年度		4年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
創業支援セミナー 参加回数	2	-	2	0	2	1	2		2	
創業支援セミナー 参加者（人／1回）	3	-	3	0	5	1	8		10	
創業・第二創業事業 計画策定件数	2	-	2	4	2	2	3		4	
専門家派遣回数	1	-	1	0	1	7	2		2	

### (3) 事業の成果

- ・昨年度実施したセミナー参加者に対して専門家を派遣して、個々に事業計画の作成についてのレクチャーや個別相談を行うことができた。セミナーだけでは、形而上的な知識となってしまうがちになってしまいがちになることが多いが直接、専門家に見ていただくことで個々の課題に対して具体的に計画を立てられるようになり、作成上の困難さの軽減につながった。これにより事業計画作成初心者でも、意欲を持って取り組もうとする前向きな姿勢が見受けられた。現段階において、関わった事業者は事業計画の作成に取り掛かっている。
- ・新型コロナウイルス禍において、今まで以上に事業者が事業計画の必要性に気付き始めたことも収穫である。また、不測の事態に直面し、事業計画とともにBCP（事業継続計画）策定に向けての意欲の高まりも収穫であった。更に、新型コロナウイルスの影響を受けている事業者に寄り添った支援を行うことで、商工会への信頼が増したことも収穫であった。
- ・市の主催する創業セミナー等への参加者は少なかったが、移住定住支援事業を通して個別に創業者支援を行う機会があったことで、創業予定者の経営に対する意識の向上が見られた。今後、事業を続けていく中で、より質の高い事業計画を練り、充実した事業計画を作成していくための機会となったと考える。

### (4) 事業実施における課題

- ・本年度は、事業計画策定セミナーが実施できず、不参加事業者への広がりが望めなかった。今後は、専門家によるリモート講習会や個別相談の機会なども設け、事業計画の必要性を事業者に伝えることに主眼を置いた取組となるようにしたい。
- ・現在、事業計画作成中の事業者に対して、更なる支援を講じて早急に事業計画を完成させるように取り組みたい。
- ・個別相談会は、より具体的な事業計画の作成に大きな力となることが分かった。次年度も専門家を派遣するなど、個々の事業所に応じた事業計画作成に向けた取組とする。
- ・創業、第二創業支援事業については、創業予定者の情報収集が鍵となる。巡回訪問等の機会を利用しながら、創業セミナーの周知に努めていく。

(5) 評価及びコメント

評価	A	B	C	D
人数		2	6	

【コメント】

- セミナーはできていないが、個別訪問やコロナによる持続化補助金等、目標には出てこないが、経営を安定化するためには大切な支援を十分に行っている。そういった意味での活動内容については評価できる。
- いかに事業継続支援ができるかが今後の課題であると考ええる。
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響でセミナーが開催できなかったが、事業所に対しての補助金申請やその他支援ができていた。
- 創業支援セミナーは1回開催できたが、事業計画策定セミナーは開催できなかったため、次年度は課題に記載されている取組を期待したい。
- 課題に掲げているようなリモート講習会にシフトできないか検討願いたい。
- コロナの影響で事業計画セミナーが未開催である。一方、専門家によるきめ細かな支援はできている。

#### 4. 事業計画策定後の実施支援に関すること

(1) 事業目的等										
事業実施状況について四半期に1回以上確認しながら目標に向けた持続的な事業経営の支援を実施する。また、産官学金とも連携しながら事業者が計画に基づき事業を進められるよう様々なフォローを伴走型支援により実施し持続的発展を図る。										
(2) 実施した事業内容										
① 事業計画策定後のフォローアップ										
新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、新たに事業計画を策定した事業所がなかったため、本年度は実施できなかった。										
<目標及び実績>										
項目	30年度		令和元年度		2年度		3年度		4年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
フォローアップ事業延数	5	-	5	0	15	0	30	-	50	-
フォローアップ延回数	20	-	20	0	60	0	120	-	200	-
創業・第二創業フォローアップ延回数	8	-	8	0	16	0	28	-	44	-
(3) 事業の成果										
<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度は新型コロナウイルス対策として持続化補助金申請及びマル経融資申請を始め、各種補助金申請を多数行った。その中でSWOT分析、売上高・市場状況・仕入状況分析を申請事業者が確認することとなり、事業計画策定に向けた事業者意識が高まった。</li> </ul>										
(4) 事業実施における課題										
<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度においては、事業計画を策定する事業所が見込まれるので、「売上高・市場状況・仕入状況・技術継承」等、きめ細かな聞き取りにより情報収集を行い計画実施状況の確認をPDCAのサイクルに則って行う。</li> <li>着実な事業実施となるように必要な資金確保については、各種補助制度を有効活用するための制度の周知から申請までの支援を実施する。</li> </ul>										
(5) 評価及びコメント										
					評価	A	B	C	D	
					人数			2	6	
【コメント】										
○ 策定後の支援ができていないが、コロナの状況を考えた対処としては十分なことを行っていると考えます。										
○ 新型コロナウイルス感染拡大のため策定等の実績は上がっていないが、持続化補助金及びマル経融資申請等、かなりの数の申請実績から経営支援ができていたと思う。										
○ 新型コロナウイルス感染拡大の影響で全くできていない。										
○ 次年度は、前項の事業計画を策定し、当項目及び後述の販路開拓へつなげていただきたい。										
○ コロナ禍であり目標値を達成できなかったことは致し方ないが、計画策定に向けた事業者意識の高まりなど、よい方向に向いている。										
○ 事業計画を策定した事業所がなかった。										

## 5. 需要動向調査に関すること

(1) 事業目的等										
<p>小規模事業者において消費者ニーズは、売上を基に曖昧に捉えているのが現状である。少子高齢化、過疎化を踏まえ、需要動向調査の実施により新たな消費者ニーズを把握し、需要に応じた商品・サービスの提供に活用する。</p>										
(2) 実施した事業内容										
① 需要動向調査										
<p>アンケートの調査対象を変更し、道の駅「みなっと」において消費者ニーズに関する調査を実施すべく準備を進めたが新型コロナウイルスの影響により、人出が激減し十分な調査結果を得られない状況から実施に至らなかった。</p>										
② 観光産業の振興に係る需要動向調査										
<p>「町並み見学者を対象にした地域及び事業者に対する欲求・要望調査」「旅行代理店への要望調査」も上記同様、実施に至らなかった。</p>										
〔代替事業〕※										
<p>上記の状況を踏まえ、本年度「地方局のテイクアウト支援事業」「商工会独自のテイクアウト支援事業」「地産地食プロモーション事業」における成果やアンケート調査結果、事業結果等から考察を行うこととした。</p>										
<目標及び実績>										
項目	30年度		令和元年度		2年度		3年度		4年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
※需要動向調査(回)	2	-	2	0	2	3				
観光産業に係る需要動向調査(回)	4	-	4	0	4	0				
項目	30年度		令和元年度		2年度		3年度		4年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
※需要動向調査による支援業者数	4	-	4	0	6	28	10	-	10	-
観光産業に係る需要動向調査による支援事業者数	5	-	5	0	10	0	10	-	10	-
(3) 事業の成果										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、水産加工練り製品の動向調査のみに絞るのではなく、需要動向調査の枠を広げ、消費者のニーズや事業者の要望に沿って調査を実施する必要があるとの方向修正を施したこともあり、本年度は「既存の商品」「地域素材を使った商品」についての需要動向調査とした。</li> <li>・「地方局のテイクアウト支援事業」</li> </ul> <p>出店した事業者は6件。一時的な新型コロナウイルス対策支援が目的であったため売り上げについては十分という数ではなかったが、消費者からは「出向く必要がなく手軽に購入できてよかった」「質の高い商品があり満足した」等の回答を得られた。事業者負担が大きく、</p>										

定期的に開催することには事業者からの不満の意見も聞かれた。

・「商工会独自のテイクアウト支援事業」

新型コロナウイルス拡大の影響を受けて、域内の26店舗で実施した。各店舗とも売り上げを伸ばすことができ好評であった。消費者からも、安全・安心して購入できることや家事の負担が減ったなどといった回答を聞くことができた。事業者からは、一時的な手立てとしては効果があったが、店舗経営との両立は、長期的にはできにくいという意見が多数を占めた。

・「地産地食プロモーション事業」

地域の特産である「鯛」と「柑橘」を使った新メニュー展開を域内にとどまらず、近隣地域にも声を掛け、18事業所が参加した。GO TO停止という状況から、十分な集客は望めなかったが、メールに寄せられた高い品質で満足を得られたという意見や中予や東予からも来店されていることから、今後も事業を広げつつ継続する価値があると感じた。

(4) 事業実施における課題

- ・本年度は異例の措置であったが、従来の街頭アンケートという手段に加え、事業の感想などを直接メール等で収集することも需要動向として有効であることを確認できた。今後も継続して試みる必要がある。
- ・地域の強みを生かした商品開発に軸をおき、より具体性を持った動向調査を実施することは、事業者にとって商品開発における方向性をつかむ有意義な調査になると感じるので、事業者サイドに立った調査を実施する必要がある。

(5) 評価及びコメント

評価	A	B	C	D
人数	1	4	3	

【コメント】

- メール等の活用によって情報を収集するなどの有効策を担当者が改めて認識できたことはよいことである。今後、このような事態が発生した場合も創意工夫に努めてほしい。
- 地域の特産を生かした、鯛及び柑橘を使った新メニュー展開はよい。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、動向調査が実施に至っていない。代替事業で成果はあったようだが、事業者目線で考えてあげないと事業者がもたないとする。
- 本年度は、新型コロナウイルスの影響で代替事業での取組であったが、事業の感想などを直接メール等で収集でき、有効な調査であったと思う。
- 独自のテイクアウト支援事業については、迅速な取組であり、市民も飲食店を支援しようとする機運が高まった。
- 需要動向調査が実施に至っていない。一方、代替事業としてテイクアウト支援事業等が実施されていることは評価できる。

## 6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること

### (1) 事業目的等

地域経済動向調査、需要動向調査で収集した情報を基に、事業計画策定及び事業計画策定後の支援と併せて「売上の向上」を目的に実施する。

### (2) 実施した事業内容

#### ① ITを活用した支援

- ・本来の「売上の向上」には直接的に結びつく支援ではないが、新型コロナウイルス禍において、影響を受けた事業所が安全・安心を獲得し、売上の確保など事業継続のために行った各種給付金や補助金の申請において、ITを使って行うことが困難な事業所に対して、申請支援を行った。
- ・グーペ利用事業者に対して、ホームページ作成指導を行った。

#### ② 見本市・商談会の参加支援

- ・製造業の2事業者に対して、WEB商談会に参加していただき、契約に結びつくことができた。
  - ◎ 東京やわはま会2020への出展支援  
新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて中止となった。
  - ◎ 愛媛やわはまフードフェア in 台北への出展支援  
新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて中止となった。

### <目標及び実績>

事業者	30年度		令和元年度		2年度		3年度		4年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
HP開設(予定)事業者数	2	-	2	2	5	3	5	-	5	-
顧客管理データベース化	2	-	2	1	5	0	5	-	5	-
50万円以上売上増加事業者数	1	-	1	0	2	0	3	-	3	-

項目	30年度		令和元年度		2年度		3年度		4年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
販路開拓講座開催回数	1	-	1	0	1	0	1		1	
販路開拓講座参加者数	4	-	4	0	6	0	8		8	
パッケージデザイン、写真撮影、パンフ作成事業者	2	-	2	2	2	0	2		2	
見本市・商談会延参加事業者数	5	-	5	5	10	2	15		20	
商談成約数/商談数	1/20	-	1/20	0	2/30	2/2	3/50		4/60	

(3) 事業の成果

- ・高齢化に伴ってITリテラシーが十分ではない事業者が増えてきており、本年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、各種給付金や補助金申請においてインターネットを用いて申請する際、支援する回数が急増した。「売上の向上」に直接的に結びつくものではないが、指導員がその対応に当たり、事業者との信頼関係構築には良い影響を及ぼした。また、ITに関する事業者の関心が高まってきたことは、大きな成果であった。
- ・ホームページ作成では、グーペ（ホームページ作成支援ツール）の無料化により、作成を希望する3つの事業者に対して作成支援を行うことができた。
- ・販路開拓講座を開催することはできなかったが、代替策として、WEBを用いた商談会を実施した。2つの事業者が参加して、商談が成立するよう支援できた。

(4) 事業実施における課題

- ・ホームページ作成については、無料化に伴い積極的な導入を希望する事業者も存在するため、セミナーという形での開催が必要である。
- ・業務改善アプリケーションの導入に力を入れるとともに、既導入事業者に対しては、引き続き、最大限に活用できるようアフターケアに力を入れる。
- ・販路開拓は小規模事業者にとって今後、必要性の高い事業であるため販路開拓セミナーの開催を含め、巡回及びホームページ・商工会だよりによる情報提供等を通して、積極的な周知活動を実施する。
- ・新たな販路開拓の方策として、近隣の商工会等との連携を密にした情報交換を行う。

(5) 評価及びコメント

評価	A	B	C	D
人数		4	4	

【コメント】

- イベントが中止となり、目標達成ができていない。ただ、その状況だからこそできることを模索して、できる支援を実施したことは評価できる。今後はこのような事態を想定し会員に情報を共有できるシステムを構築してほしい。
- ITを活用した支援やホームページ作成支援は、かなり事業成果を生むのではないかと期待できる。
- ITを活用した支援ができ、成果が出てよかった。改善点も見つかり、次回成果に期待したい。
- 講座の開催はできなかったものの、WEBを用いた商談会を実施し、2件の商談が成約につながられた点は一定の成果である。
- グーペを活用したHP作成実績が具体的に見られた。WEB商談会で契約に結び付けたことは評価できる。

## II. 地域経済の活性化に資する取組

(1) 事業目的等										
近代化産業遺産である明治の町並み景観整備・交流拠点整備と運営において、地域関係団体による「地域活性化特別委員会」を組織し、地域資源である近代化産業遺産（明治の町並み）の魅力を生かした地域ブランド化、にぎわいの創出を持続的に発展させる取組を展開する。また、地域経済の活性化、にぎわいの創出には地域の歴史・文化に加えそれを演出する人材育成に取り組む。										
(2) 実施した事業内容										
① 近代化産業遺産（明治の町並み）による戦略										
◎ ダルメイン世界マーマレードアワード&フェスティバル日本大会における保内町商工会での「おもてなし事業」										
新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けてマーマレード大会自体が中止となり、それに伴い、同「おもてなし事業」も中止とした。										
◎ 近代化産業遺産明治の街並みガイド 保内ボランティアガイドの会主催										
開催回数 3回										
参加者数 3組、30名										
取組内容 GO TOトラベル停止後は皆無。実施した3組に対しては、白石和太郎洋館・国立銀行発祥の地・電灯が灯った町・愛媛蚕種・内之浦公会堂・庄屋跡青石塀・宮内川矢羽根積青石塀等のガイドを行った。										
② 人材育成による活性化戦略										
◎ さくら祭り（ふれあい市）										
新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けてさくら祭り自体が中止となり、それに伴い、「ふれあい市」を通常通り保内庁舎中庭で実施したため、さくら祭りの来場者数はカウントできなかった。										
◎ やわたはま産業まつり（青年部ブース）										
新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けてやわたはま産業まつり自体が中止となり、それに伴い、同「青年部ブース」も中止とした。										
<目標及び実績>										
項目	30年度		令和元年度		2年度		3年度		4年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
講座開催（回）	3	-	3	0	4	0	4	-	4	-
講座出席者（人）	15	-	15	0	20	0	20	-	20	-
項目	30年度		令和元年度		2年度		3年度		4年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
さくら祭り（来場者数）	300	150	350	200	400	0	450	-	500	-
やわたはま産業まつり（青年部ブース来場者）	300	300	350	200	400	0	450	-	500	-



(3) 事業の成果

- ・おもてなし事業は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて実施できなかった。代替案をと考えていたが、先行きの見えない事態だけに、こういった取組が実施できるのか全く予想がつかず、対処できなかった。ただ、本年度は「英国の風を感じて」と題し、明治・大正期のヨーロッパのドレス等に身を包んだ参加者を対象とした写真撮影会を予定していたことから、早い段階でポスターの作成、衣装の調達と女性部を中心として積極的に活動を展開できたことは、次年度につながる成果であったと感じる。
- ・イベントへの参加でも同じく新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施できなかった。ただ、昨年度から保内中学校の文化祭（令和2年11月3日）と連携して、ふれあい市を実施していたことを受けて、本年度も規模を縮小した文化祭への昼食提供支援を中学校のご理解の下、実施することができた。ふれあい市の出店者に限定することなく、広く会員事業所に呼びかけることによって昨年以上の反響があった。今後も、このような機会を活用した取組を実施したいと考える。

(4) 事業実施における課題

- ・次年度も「おもてなし事業」を展開する。ただし、世界マーマレードフェスティバルは予定では5月に審査会のみを実施し、表彰式及びイベントは6月以降のコロナ収束時に併せて実施するとの方向を市当局が示していることから、準備を怠りなく十分に行い、開催に関する情報を適宜入れながら、にぎわいを創出する取組とする。
- ・その他、各種イベントでは、さくら祭りの中止が決定しているため、本年4月にオープンする川之石地区交流拠点施設のこけら落としとコラボしたイベントを企画し、事業者支援ができるようにする。
- ・次年度も保内中学校との連携を維持し、ふれあい市の出店を図るとともに、人材育成による活性化として地域資源探索を図る。

(5) 評価及びコメント

評価	A	B	C	D
人数		1	2	5

【コメント】

- 事業の中止があり、目標達成ができなかった。人を集めてのイベントはできなかったが、集客以外での支援という方法で一部対応でき、成果を上げたことは評価できる。目標の設定が「さくら祭り」など、固定されたものとなっているので、今後、天災等で中止となることも予想されることを考慮し、代替案での実施も評価できるような仕組みも検討すべきである。
- 新型コロナウイルス感染拡大のため、おもてなし事業は実施できなかったが、今後、川之石地区交流拠点施設の活用で地域経済の活性化が望まれる。
- 新型コロナウイルス感染拡大のため、事業中止が相次ぎ全くできていない。
- 本年度は、新型コロナウイルスの影響で想定していた事業やイベントができなかったが、次年度は事前準備を十分に行い、地域振興につながる成果を期待したい。
- 新型コロナの影響でイベントは皆無の状況であり、翌年度に期待したい。
- コロナ感染拡大のため事業が中止となり実施できなかった。

### Ⅲ. 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組

#### 1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること

(1) 事業目的等										
経営発達支援計画の目的を達成するため、支援機関同士で支援の現状（課題や成果）についての情報交換を実施する。支援の実務をとおして培われた知識や経験・技術等の情報交換により支援能力の向上を図る。										
(2) 実施した事業内容										
① 経営発達支援計画実施機関との情報交換										
新型コロナウイルス感染拡大による影響を受けた飲食業支援を行うべく、八幡浜商工会議所及び伊方町商工会との経営発達支援情報交換会を実施した。										
② 専門家との情報交換										
愛媛県よろず支援拠点と連携して、専門家による「製造工程策定支援」「経営計画策定支援」「事業承継計画策定支援」「第2創業計画策定支援」等についての指導及び情報交換を行い、会員事業所との伴走型支援を推進した。										
< 目標及び実績 >										
区分	30年度		令和元年度		2年度		3年度		4年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
商工会・商工会議所との情報交換会の開催数	1	-	1	0	1	2	1	-	1	-
専門家との情報交換会の開催数	1	-	1	1	1	5	1	-	1	-
(3) 事業の成果										
<ul style="list-style-type: none"> <li>情報交換会については、当初予定していた「経営発達支援」に係る直接的な情報交換とはいわず、新型コロナウイルス感染対策として連携した取組となるような情報交換であったが、今後の with コロナ時代の到来を考えるとタイムリーな情報交換又は連携が取れたと考える。</li> <li>専門家の多岐にわたる情報やノウハウを吸収することによって、会員事業所の今抱える課題や問題点を洗い出し、今後の事業展開を見出すことができた。</li> </ul>										
(4) 事業実施における課題										
<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も八幡浜商工会議所並びに近隣の商工会との連携を強化していくとともに、経営発達支援計画を支える情報交換会を実施していく。</li> <li>事業計画策定事業所を中心として専門家派遣を推し進め、更なる課題解決への礎とする。</li> </ul>										

(5) 評価及びコメント

評価	A	B	C	D
人数	3	5		

【コメント】

- 多少の変更はあったが、新型コロナウイルスに関する関係はできていた。
- 近隣の商工会等との連携も大いに必要であり、地域性を生かして、お互いの問題点の解決につながるよう、継続した取組を展開していただきたい。
- 情報交換ができて経済活性化のために事業ができている。
- 目標を上回る情報交換会を実施しており、専門家や各機関との連携が取れていることから当項目の成果は十分である。
- 他支援機関との連携もよくできている。経済セミナー、人材育成事業も十分実施されている。

## 2. 経営指導員等の資質向上等に関すること

(1) 事業目的等																																																																
<p>職場内での「報・連・相」を徹底し、常に支援状況を職員間で共有することとして、小規模事業者が望む「売上の向上・利益の確保」に組織として取り組むため支援事例・支援プロセス・支援実績等がいつでも誰でも確認できるデータ管理の徹底を行い支援体制の強化を図る。また、既存研修に参加し個社経営分析から経営改善、販路開拓支援、事業承継など専門知識の習得を図る。</p>																																																																
(2) 実施した事業内容																																																																
<p>① 専門家派遣事業による研修</p> <p>◎ 令和2年度経済セミナー（八幡浜商工会議所との共催）</p> <p>開催日 令和2年6月25日（木）</p> <p>講師 株式会社いよぎん地域経済研究センター代表取締役社長 重松 栄治</p> <p>参加者 職員 小規模事業者 7名</p> <p>講演内容 新型コロナウイルスによる経済状況並びに今後の対応策等</p> <p>② 資質向上の取組「職場研修」</p> <p>◎ 各種研修会への参加</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>・経営指導員等研修一般コース</td> <td style="text-align: right;">参加者</td> <td style="text-align: right;">2名</td> </tr> <tr> <td>・経営指導員等能力開発研修</td> <td style="text-align: right;">参加者</td> <td style="text-align: right;">2名</td> </tr> <tr> <td>・リスクマネジメント研修</td> <td style="text-align: right;">参加者</td> <td style="text-align: right;">1名</td> </tr> <tr> <td>・新人社員研修</td> <td style="text-align: right;">参加者</td> <td style="text-align: right;">1名</td> </tr> <tr> <td>・事業継続力強化計画策定支援向上講習会</td> <td style="text-align: right;">参加者</td> <td style="text-align: right;">1名</td> </tr> <tr> <td>・スーパーバイザー派遣事業に係る職員研修（3回実施）</td> <td style="text-align: right;">参加者</td> <td style="text-align: right;">1名</td> </tr> <tr> <td>・柑橘を利用した商品開発に関する勉強会</td> <td style="text-align: right;">参加者</td> <td style="text-align: right;">2名</td> </tr> <tr> <td>・若手職員を対象とした合宿型研修（2回実施）</td> <td style="text-align: right;">参加者</td> <td style="text-align: right;">1名</td> </tr> <tr> <td>・経営発達支援計画認定支援機関向け支援能力向上講習会</td> <td style="text-align: right;">参加者</td> <td style="text-align: right;">2名</td> </tr> <tr> <td>・IT支援力向上講習会</td> <td style="text-align: right;">参加者</td> <td style="text-align: right;">1名</td> </tr> <tr> <td>・経営支援員研修</td> <td style="text-align: right;">参加者</td> <td style="text-align: right;">3名</td> </tr> <tr> <td>・勤怠管理システム導入研修</td> <td style="text-align: right;">参加者</td> <td style="text-align: right;">2名</td> </tr> <tr> <td>・法定経営指導員研修会</td> <td style="text-align: right;">参加者</td> <td style="text-align: right;">1名</td> </tr> <tr> <td>・愛媛県防災士養成講座</td> <td style="text-align: right;">参加者</td> <td style="text-align: right;">1名</td> </tr> <tr> <td>・小規模事業共済業務に関する実務研修</td> <td style="text-align: right;">参加者</td> <td style="text-align: right;">3名</td> </tr> <tr> <td>・経営指導員研修会</td> <td style="text-align: right;">参加者</td> <td style="text-align: right;">1名</td> </tr> <tr> <td>・地域経済好循環拡大推進会議（全国連絡会）</td> <td style="text-align: right;">参加者</td> <td style="text-align: right;">2名</td> </tr> <tr> <td>・BIZミル研修（全6種研修）</td> <td style="text-align: right;">参加者</td> <td style="text-align: right;">3名</td> </tr> </table> <p>◎ 職場研修</p> <p>・研修名「勤怠管理システム運用に関する研修」 1回実施</p>											・経営指導員等研修一般コース	参加者	2名	・経営指導員等能力開発研修	参加者	2名	・リスクマネジメント研修	参加者	1名	・新人社員研修	参加者	1名	・事業継続力強化計画策定支援向上講習会	参加者	1名	・スーパーバイザー派遣事業に係る職員研修（3回実施）	参加者	1名	・柑橘を利用した商品開発に関する勉強会	参加者	2名	・若手職員を対象とした合宿型研修（2回実施）	参加者	1名	・経営発達支援計画認定支援機関向け支援能力向上講習会	参加者	2名	・IT支援力向上講習会	参加者	1名	・経営支援員研修	参加者	3名	・勤怠管理システム導入研修	参加者	2名	・法定経営指導員研修会	参加者	1名	・愛媛県防災士養成講座	参加者	1名	・小規模事業共済業務に関する実務研修	参加者	3名	・経営指導員研修会	参加者	1名	・地域経済好循環拡大推進会議（全国連絡会）	参加者	2名	・BIZミル研修（全6種研修）	参加者	3名
・経営指導員等研修一般コース	参加者	2名																																																														
・経営指導員等能力開発研修	参加者	2名																																																														
・リスクマネジメント研修	参加者	1名																																																														
・新人社員研修	参加者	1名																																																														
・事業継続力強化計画策定支援向上講習会	参加者	1名																																																														
・スーパーバイザー派遣事業に係る職員研修（3回実施）	参加者	1名																																																														
・柑橘を利用した商品開発に関する勉強会	参加者	2名																																																														
・若手職員を対象とした合宿型研修（2回実施）	参加者	1名																																																														
・経営発達支援計画認定支援機関向け支援能力向上講習会	参加者	2名																																																														
・IT支援力向上講習会	参加者	1名																																																														
・経営支援員研修	参加者	3名																																																														
・勤怠管理システム導入研修	参加者	2名																																																														
・法定経営指導員研修会	参加者	1名																																																														
・愛媛県防災士養成講座	参加者	1名																																																														
・小規模事業共済業務に関する実務研修	参加者	3名																																																														
・経営指導員研修会	参加者	1名																																																														
・地域経済好循環拡大推進会議（全国連絡会）	参加者	2名																																																														
・BIZミル研修（全6種研修）	参加者	3名																																																														
<目標及び実績>																																																																
項目	30年度		令和元年度		2年度		3年度		4年度																																																							
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績																																																						
事務局長研修	2	1	2	2	2	5	2		2																																																							
指導員・支援員研修	3	3	3	2	3	9	3		3																																																							
支部研修（局長）	1	1	1	1	1	0	1		1																																																							
支部研修（指導員・支援員）	1	1	1	1	1	0	1		1																																																							

(3) 事業の成果

- ・本年度は、新規採用支援員が配置されたことに伴い、新人研修の機会が多くなった。それに伴って、既職員も新人に対してO J Tを生かして研修を行ったり、自らも初心に帰って再認識したりなど、研修に刺激が生まれ職員の一丸となった研修体制が確立した。
- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴って、それに対する事業者支援が増大した。持続化補助金やマル経などの申請件数の増などに伴って、指導員・支援員の対応力の向上など、着実な成長が見られた。
- ・簿記3級検定試験や防災士認定試験へのチャレンジなど、現在取得している以上の技能資格の取得に向けて積極的にチャレンジする職員の存在が能力開発と資質向上の両面において、他の職員への良い刺激となっている。
- ・若年指導員については、指導員の事業所支援にベテラン指導員が同行し、支援に必要な知識を習得させ全体的な支援能力や力量を育成することを目的としたO J Tによる指導が全体的な能力向上につながった。

(4) 事業実施における課題

- ・各種研修会による個々の職員の研修は意欲的に取り組むことはできたが、そこで得た知識や情報を職員全体に浸透させる研修の場を持つことが十分ではなかった。次年度は、職員全員による勉強会を実施し資質の向上を図る。
- ・指導員等、職員一人一人が支援する個社支援については、個社の現状から目標値に至る支援プロセス及び支援策等のカンファレンスを行い情報の共有化を図り、職員の指導・支援力など資質向上を図る。また、それらの情報についてはポートフォリオとして蓄積し職員全員で共有する。

(5) 評価及びコメント

評価	A	B	C	D
人数	2	6		

【コメント】

- 中止以外の内容は十分な実績と評価できる。今後は職員が会員へのより細かなサービスができるように仕組を考え実行していただきたい。来所できない人が悪いのではなくできない会員にもPRできる仕組を作り上げてほしい。
- 今後も、新型コロナウイルス対策及び持続化補助金申請等のスキルを幅広く習得して、事業者支援を行っていただきたい。
- 指導員のレベルが上がっているように思える。
- 新人職員に対するO J T指導や能力向上への積極的な姿勢がうかがえる。課題にも記載しており、次年度は職員間の情報共有を期待したい。
- 地域の良き支援者となるよう、引き続き、研修による資質向上に努められたい。
- 専門家による経済セミナー、各種研修会への職員派遣など計画どおり実施されている。

### 3. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること

(1) 事業目的等					
事業の評価及び見直しについては、保内町商工会経営発達支援計画事業評価委員会を設置しP D C Aサイクルに基づき毎年実施する。					
(2) 実施した事業内容					
【経営発達支援計画事業評価委員会（書面開催）】					
開催日	令和3年2月26日(金)				
出席者	委員8名				
議 題	① 令和2年度経営発達支援事業の内容について ② 書面による各委員からの報告と今後の対応について ③ 事業の進捗状況の検証と評価について				
(3) 事業実施における課題					
<ul style="list-style-type: none"> <li>各事業について、1年間という大きな流れとしてのP D C Aサイクルと四半期程度の短いスパンで事業を効果的・有効的・効率的な視点で執行状況を見るためのP D C Aサイクルを持つ必要がある。そのために経営指導員を中心とした機動力のある組織を構築していく。</li> <li>本年度、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて実施できなかった事業については、事態の長期化並びにwith コロナの時代の到来等を考慮して、再度の見直しまたは、方向修正を検討する必要がある。</li> </ul>					
(4) 評価及びコメント					
	評価	A	B	C	D
	人数	1	7		
【コメント】					
○ 地元委員は直接、職員から説明を聞き、市外の委員の方々には書面という形で行い、事業そのものは問題なく行えた。ただ、出席できなかった地元委員もおり、最終チェックをそろって評価できなかったことが残念である。					
○ w i t h コロナの時代の波に乗って、効率的な事業展開を期待したい。					
○ 忌憚のない意見が出ていた。					
○ 次年度の取組を期待したい。					
○ コロナ禍の中でもフットワークが軽く、きめ細やかなサービスを提供する地域密着型の保内町商工会に期待したい。					
○ 書面開催となったが、振り返りもしっかり行われる仕組となっている。					

## 評価者からいただいたその他の意見

- コロナ禍、非常に無理難題があったが、今年は十分とは言えないまでもよくできたと思う。代替案などを行ったり、目標として設定されていない取組であるが、状況に応じた取組なども行ったりして対応できたことは評価できる。
- 非常事態の中、新しい方策も発見できたことは大きな収穫であった。リモートの上手い利用の仕方もよい経験になったと感じられる。
- 外出自粛要請など、事業所訪問が儘ならない環境下であったので、無理はあったが、逆により全会員へのアプローチの方法が取れたのではないかと思われる。故に今後、新しい生活様式の中、会員にタイムリーな情報をどのように案内できるかが大きな課題となる。「今、自分の会社に必要なのか。使えるのか。メリットはあるのか」等、必要な情報が一目瞭然に伝わらないと有効な情報提供とはならない。「自社の困りごとに何らかの解決方法がある」と、商工会からの情報提供を積極的に利用しようとするような環境にしていくのが商工会職員の重要な業務と考えている。あくまでも会員のための会なので、効率よく上手く情報共有できるように頑張っていたきたい。
- 水害・新型コロナウイルスなど、今までにない試練が毎年のように押し寄せている。この逆境にこそ商工会業務の改善の余地があるのではないかと考える。
- 基本的に人事異動のない商工会議所とは異なり、商工会は人事異動があることを知った。本年度、新規採用職員や転任者等の新たな風が吹くことでマンネリを打開することができ、商工会自体の成長につながることを期待できると考える。
- この評価書では実績しか見えないが、もしも、実績の裏側には職員の長時間労働の実態があったとなれば残念な結果であるのではないか。職員の労働環境について聞きたかった。

### 保内町商工会経営発達支援計画事業評価委員

保内町商工会会長	山内 裕司
同 副会長	宮田 信雄
同 副会長	竹井 伸夫
同 青年部部長	井上 智博
同 女性部部長	中川由起子
県連経営支援課広域支援係	武田 晃典
八幡浜市商工観光課課長	松良 喜郎
中小企業診断士	上野 敬治